

A. E. ハウスマン

1 アテュス

- 「リュディアの民よ ヘルムス川の<sup>あるじ</sup>主らよ  
砂金をふるい分ける者らよ  
未だ 槍が飛び交い  
狩人らが家路に向かっているや」
- 「王よ タベの<sup>とぼり</sup>帳を降ろす星が 5  
ツモラス山から羊を麓に呼び戻す  
鳩も天空から家路につき  
王子もサルディスの町に戻られます」
- 狩りの獲物をどっさり積んで  
一行はミュシア街道を進む 10  
乙女座の守護星ヘルメースが  
クロイソス王の元に息子アテュスを連れ戻す
- 「リュディアの民よ 川や泉の底に  
砂金の鉱脈を見つける者らよ  
リュディアの民よ オリュンポス山を下ってくる 15  
アテュスの姿は<sup>しか</sup>確と見えるや」
- 「王よ 異邦のフリギア人が見えます  
狩人装束に身を固めた護衛たち  
あなたのご子息を危険からお護りする者たちも  
その者たちは見えますが 20  
ご子息のお姿はいずこにも」
- 「リュディアの民よ こちらに向かう一隊の者らが  
日暮れ時で 老いた眼にはしかと見えぬのだが  
<sup>なにゆえ</sup>何故その者らは槍を引きずっておる  
砂金を洗う者らよ <sup>なにゆえ</sup>何故じゃ
- 「我も歳をとったものよ 日が暮れる 25  
道に迷う夜がやって来る  
ミュシア街道の入口をゆっくりと進む者  
民よ リュディアの民よ あれはいったい何者ぞ」

獵<sup>いぬ</sup>犬<sup>ぬ</sup>どもが主<sup>あるじ</sup>の後ろで鼻を鳴らし  
脇を進む狩人たちは黙して語らず  
胸に突き刺さった猪狩りの槍が輝く  
父王の自慢の息子が家路に向かう

30

(山中光義訳)